2022年2月19日

春翔に土 乱戦突入

紙相撲新聞
第155回本場所
中日～七日目号
編集・発行
日本紙相撲協会

春翔に土　美空3敗、若嶋4敗
大神楽1敗、千代鈴2敗で追走

【第百五十五回本場所中日～七日目】

中日と七日目が行われ、七日目にただ一人全勝の春ノ翔に土がついた。七日目を終わって、1敗で横綱春ノ翔と関脇の大神楽、これを2敗で大関千代鈴と小結出羽翼、平幕の鉄甲、喜乃郷、雪若丸、生駒山、鳥海波の7人が追う展開となった。また七日目に横綱若ノ嶋が魁電に敗れて4敗目を喫した。

↑七日目、全勝の春ノ翔は小結烏帽子岳と対戦。終始攻勢に出た烏帽子の前に、受け身を強いられた春ノ翔。なんとか取り直しに持ち込んだが烏帽子の勢いは止められなかった。

↓中日注目の一番は千代鈴対大神楽戦。1敗同士の対戦は千代が攻めたものの一歩及ばず。

ここまで先場所とは別人と思わせる安定感を見せる春ノ翔は中日に魁電と対戦。対戦成績もこれまで春ノ翔の4勝、魁電の5勝と拮抗しており油断は出来ないところだったが、立ち合いからすぐに左を差して危なげなく寄り切って無傷の6連勝とした。「いやー、全然隙がないねー、強いね」と理事長も絶賛。全勝優勝に向け死角は見当たりそうにない。

魁　電●（引き落し）○春ノ翔

かたや五日目まで2勝3敗と黒星先行の若ノ嶋は鬼ヶ嶽との一番。この

ところ2場所連続でのど輪からの押し倒しで敗れているだけに、若ノ嶋にとってはもはや顔を見るのも嫌な相手となっているだろう。この日は錦風親方が不参加のため、「若ノ嶋気合入れろ、負けんな」といつもの気合を注入することは出来ない。その鬼ヶ嶽と視線を合わせることもなく、淡々と仕切りを重ね時間一杯。

両者立ち上がり、鬼ヶ嶽がまたものど輪で圧力をかけ前に攻め込む。しかし若ノ嶋ものけぞりながらも必死に耐えたが、ここで左を差されてまたもピンチかと思われた。しかし鬼ヶ嶽が寄って出るところで廻しが土俵に付いて若ノ嶋に軍配が上がった。

鬼ヶ嶽●（引き落し）○若ノ嶋

前日の白閃光戦と同じような形での決着となり横綱の勝ち方としてはまたも納得のいく勝ち方ではなかったが、未だ本調子にはほど遠い今場所の若ノ嶋にとっては内容よりも白星の方が薬となるだろう。

もう一人の横綱美空富士は一回り小さくなった体躯で連日健闘をみせ、初顔の大綱嵐を下して4勝2敗で中日を乗り切った。七日目以降の三役勢との対戦でどれだけ白星をあげられるか、優勝争いに加わって欲しいところだ。

中日の好取組となった1敗同士の千代鈴と大神楽の一番。こちらも優勝争いに絡んでいる2人だ

一敗	春ノ翔、大神楽
二敗	千代鈴、出羽翼、鉄　甲 喜乃郷、雪若丸、生駒山 鳥海波

が、絶好調の春ノ翔についていくためには、両者ともこのまま星一つ差でついていきたいところ。これまでの3回の対戦では千代鈴が全て勝っており、先場所は押し倒しでの決まり手。まだ一回も勝っていない大神楽は、苦手意識をなくすためにもそろそろ一矢報いたい。

待ったなしの立ち合いから、四つに組んで共に左を差し合う展開になり、大神楽がのど輪を差し込む。しかしのど輪の入りが浅く押し返した千代鈴が逆に左を差す体制になり、これで万事休すかと思われた。しかし土俵中央で千代鈴の足が流れて引き落としで大神楽が一敗を守った。

この日急遽中日の行司を任された磯ノ海親方は、最初は普通に「のこった、のこった。」と言っていたが、攻防が激しくなり大神楽がのど輪を入れ攻めたあたりから、急に声のトーンに力が入って高くなり、もはや行事なのか大神楽への声援なのかわからない行事振りだった。

そして七日目を迎えて、全勝の春ノ翔の相手は小結の烏帽子岳。中日までの内容から見ても無難に捌きそうな感じだが、対戦成績は意外にも4対4の五分の星である。いつものように磯ノ海親方が「よし、行けー」と声援を送る。立ち上がるとまずは春ノ翔が前に出たが、そこを烏帽子岳がタイミングよく左を差して寄り立て、西土俵に下手投げ気味に寄り切ったかに見えた。

だが、微妙なところで同体取り直しの判定に。取り直しの一番は、がっぷりの体制から土俵を半周ほど回ったところでまたも左を差した烏帽子岳が今度は慎重に正面土俵に寄り切った。「えー、春ノ翔負けたかー」との声とともに「やったー」と歓喜の磯ノ海親方。この結果勝ちっぱなしがいなくなり、優勝争いは2敗ぐらいまでになる可能性が高くなってきて、先場所同様の盛り上がる展開となっていく気配だ。

前日に辛うじて鬼ヶ嶽を退けた若ノ嶋は魁電と対戦。ここ2場所は勝っているだけに表情にも余裕があるように見える。だが今場所の若ノ嶋は立ち合いに鋭さがなく受け間違うと一気に左差しでもっていかれかねない。かたや魁電は中日まで2勝4敗とこちらもやや